

# 健診データの集計、保健指導に課題

鳥取県生活習慣病検診管理指導協議会循環器疾患等部会  
鳥取県健康対策協議会生活習慣病対策専門委員会

- 日時 平成21年7月30日（木） 午後1時40分～午後3時50分
- 場所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 21人  
重政部会長、富長委員長  
天野・越智・竹田・谷口・中村・藤井・宮崎・森・吉田眞・吉田泰・吉中各委員  
オブザーバー：鳥取市尾室主幹、湯梨浜町松尾保健師、北栄町伊垢離課長補佐  
県健康政策課：川本保健師  
健対協事務局：谷口局長、岩垣係長、小林主任、田中主事

## 【概要】

- 平成21年5月末集計による平成20年度市町村国保特定健診・特定保健指導実施状況は、受診者数26,007人、健診受診率23.3%であった。
- 20年度の特定健診・特定保健指導の実績報告にあたって、福岡県ソフトで集計可能な市町村国保については報告をお願いし、それ以外の被用者保険の保険者には、福岡県ソフトでの集計が可能な保険者については、協力を依頼していく。
- 慢性腎臓病（CKD）特別対策事業について、本委員会を連絡協議会の場として活用することとなり、今後、研修会等について検討していくこととなった。

## 挨拶（要旨）

### 〈重政部会長〉

平成20年度から開始された新健診制度について、昨年のデータがそろい始めているところであるが、受診率は全国的に見ても低いようである。保健指導については現在も実施中であり、今後、実施率等が明らかになってくると思われる。平成

25年度に実施される支援金の評価へ向けて、各市町村等が設定している目標値を比較しながら今後検討していきたい。

### 〈富長委員長〉

資料によると、県内の平成20年度市町村国保受診率は23.3%で、全国平均28.3%に比べ若干低いようであるが、概ね全国並みであった。また、保険者協議会中央連絡会において、特定健診・保健指導の情報の電子化の煩雑さが指摘されたほか、受診率に応じた後期高齢者支援金の加算・減算についても撤廃を求める意見が相次いだようである。

特定健診の健診項目については、基本健診より項目が減り、質が低下しているように感じており、是非とも追加項目の導入の動きを拡大していただきたいと考えている。

また、国において慢性腎臓病（CKD）への取組みを強化する動きがあり、そのあたりについてもご議論いただきたい。

## 報告事項

### 1. 市町村国保における平成20年度及び平成21年度特定健診・保健指導実施体制について：

川本健康政策課がん・生活習慣病担当保健師  
平成20年4月1日現在対象者数111,513人のうち、平成21年5月末集計によると、特定健診受診者数は26,007人、受診率は23.3%であった。中間報告のため、過誤などにより今後数値が変動する可能性があり、最終報告は各市町村において11月1日までに国へ報告することとなっている。

以下のような問題点が報告された。

- ・健診受診率は全体的に低く、特に若い年代（40～50代）の男性受診者数が少なく、多くの市町村が目標受診率に至らなかった。また、平成19年度基本健診の国保の受診者数とほぼ同じ状況で、同じ者が受診している傾向があり、未受診者対策が課題である。
- ・制度改正の周知不足、実施機関での混乱、またメタボ健診という意識により、やせているので受診しないといった状況があった。
- ・保健指導の対象者が少ない（肥満群であっても治療中により非該当）、身近に実施機関がないため利用できないとの声もあり。

各市町村国保では、21年度へ向けた取り組みとして、広報の強化、休日健診やがん検診とセット健診、未受診者に対する個別通知、自己負担金の軽減などを検討している。この中で、自己負担金については、ほとんどの市町村が無料～1,000円程度で実施予定とのことだった。

委員から、「初回面接修了者のとらえ方も含めて実施状況作成様式の見直しが必要である」、「メタボリックシンドロームに重点を置いた今回の健診内容は健診という名に恥じる健診であり、基本的な健診項目には最低限心電図、貧血検査、血清クレアチニンを追加して欲しい」、などの意見があった。

また、平成21年6月末による被用者保険の実施状況（暫定）においても示され、8保険者のうち

計画時目標健診実施率を上回ったのは4保険者で、最高は実施率77.4%であった。

## 協議事項

### 1. 特定健康・特定保健指導における実績報告について

特定健診・特定保健指導については、厚労省による「健康診査指導等事業実施のための指針」に基づき、従来の基本健康診査と同様に、県において各医療保険者の実施状況を取りまとめ、健診実施方法の検討や健診の効果・効率の評価について検討することとなっている。本委員会においても、特定健診のデータ集計については従来の基本健診のデータが無駄にならないよう、市町村国保及び被用者保険のデータ提供について検討していくこととしている。

しかし、各保険者から県へ健診データの報告義務はなく、また各保険者の国への実績報告様式は、精度管理に必要な各検査項目別の異常所見数等の健診状況報告様式（詳細な健診データ）となっていないため、従来の基本健診のような異常者数等の集計を行うには、システム改修や事務負担がかかる状況にある。

そこで、今後の対応として、健診の効果・効率の評価（精度管理）、有所見の状況が一覧表で閲覧することができる「福岡県国保連合会集計ソフト」により報告することが了承された。

今後、福岡県ソフトで集計可能な市町村国保については報告をお願いし、それ以外の8保険者には、福岡県ソフトでの集計が可能な保険者には、協力を依頼していくこととした。ただし、協力できる被用者保険の保険者は限られていること、県外の保険者の県内被扶養者のデータは集まらない等の問題があり、市町村国保と被用者保険の集計は別々にする必要があるのではないか、との意見もあった。

## 2. 特定健康・特定保健指導従事者講習会について

今年度は平成22年2月頃に西部地区で本委員会終了後に開催することとなった。講師は鳥取大学医学部病態情報内科学講師の谷口晋一先生を予定している。

## 3. その他

### ○慢性腎臓病（CKD）特別対策事業について

国において、腎臓疾患患者の増加等により、CKDに対する正しい知識の普及、人材育成を図ることを目的に、新規事業として「慢性腎臓病

（CKD）特別対策事業実施要綱」が策定された。

事業内容として、医師会、腎臓病に関する専門医、市町村等関係者からなる連絡協議会の設置、患者等一般向けの講演会等の開催、医療関係者を対象とした研修会の実施などが盛り込まれている。国から1/2の補助となっている。連絡協議会の場としては既に地域において同様の組織がある場合には、これを活用しても差し支えないとされていることから、22年度事業へ向けて、講演会、研修会等について本委員会において検討していくこととした。

# 鳥取県健康対策協議会従事者講習会等のご案内

## 大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会

日 時 平成21年8月29日（土）午後4時～午後6時  
場 所 「倉吉交流プラザ」視聴覚ホール 倉吉市駄経寺町187-1 電話（0858）47-1181  
内 容

（1）コロンモデルを用いた大腸内視鏡挿入法の実地研修を行います。症例検討は今回は行いません。

講師 江府町国民健康保険江尾診療所長 武地幹夫先生

鳥取大学医学部附属病院第2内科講師 原田賢一先生

（1）大腸がん検診精密検査医療機関登録及び大腸がん検診注腸X線検査医療機関登録条件

1）大腸がん検診従事者講習会を少なくとも3年に1度は受講すること。

2）大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得すること。

3）更新手続きは平成22年度中に行います。

（2）大腸がん検診精密検査医療機関登録点数 5点

大腸がん検診注腸X線検査医療機関登録点数 5点